

第3章 保存修理の内容と調査成果

第1節 保存修理の内容

表層崩落した2号墳の上部の端部は人力で削り落とし、擁壁上の崩堆土は排土する。下部にふとんカゴを設置して、その上の法面に植生工を施工する。

2号墳の断面を精査して記録し、必要以上には削らず、できるだけ残すように留意する。断面に凹凸が残ることについては、植生吹付を厚くすることで対応することとする。

また、南側の法面上の亀裂部の工事範囲が狭小であるため、法面保護工事時の立会での対応とする。

第2節 調査成果

2号墳側表層崩落部の断面精査の結果、2号墳の周溝を検出した。平成7・8年度の調査では前方部と後方部の側に周溝が検出されたが、その後方部へと続く同一の周溝である。

2号墳側面の断面観察の結果、図4(10頁)に示したとおり⑤層の上に②・④層を盛り前方後方墳の墳形を形成して、⑤層を掘り下げて周溝を造成したことが看取される。その後に①層が堆積したものであろう。ただし①層は北側では消失している。③層は②層の流出土と思われる。⑥層は平成7・8年に発掘調査して周溝を検出した後に、それを埋め戻した土と考えられる。

造成の時期は、平成8年の調査の時に古墳前期に比定される土師器壺が検出されていることからこの時期に比定される。また南側法面保護工事の立会では、遺構・遺物は確認されなかった。



上町マンダラ古墳群全景（南から）

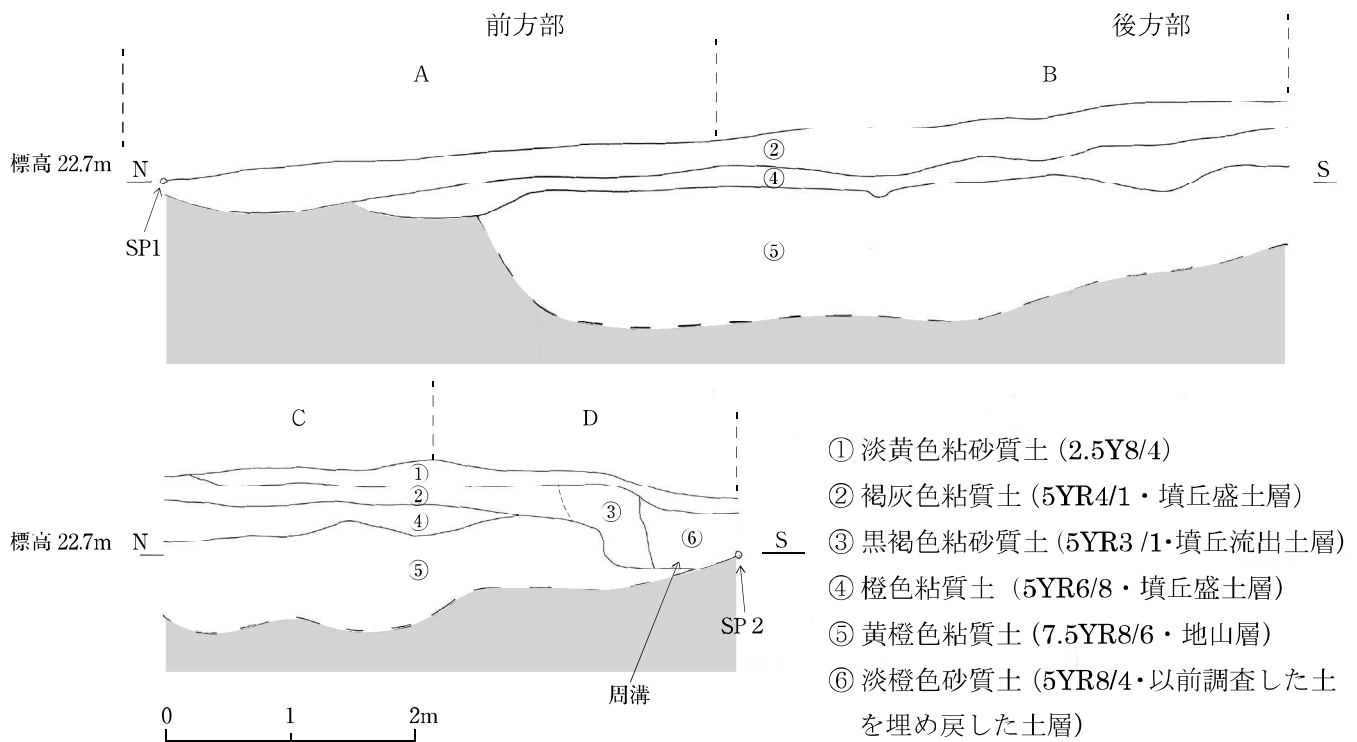
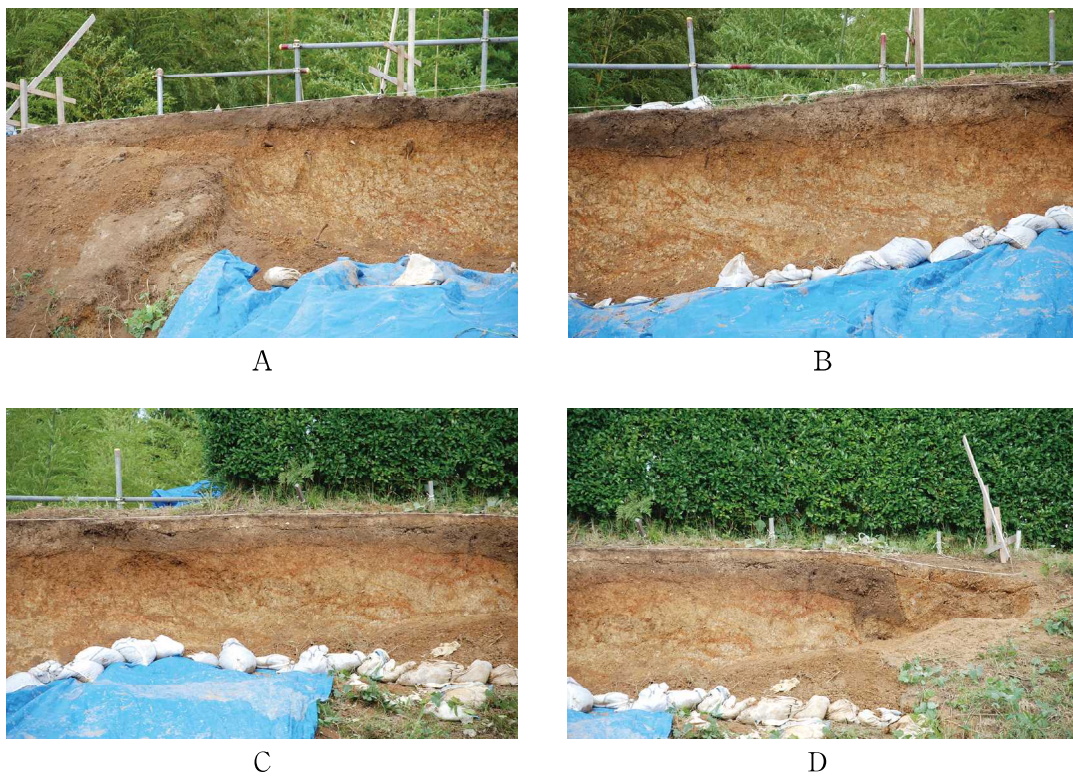


図4 2号墳側断面実測図 (1:60)

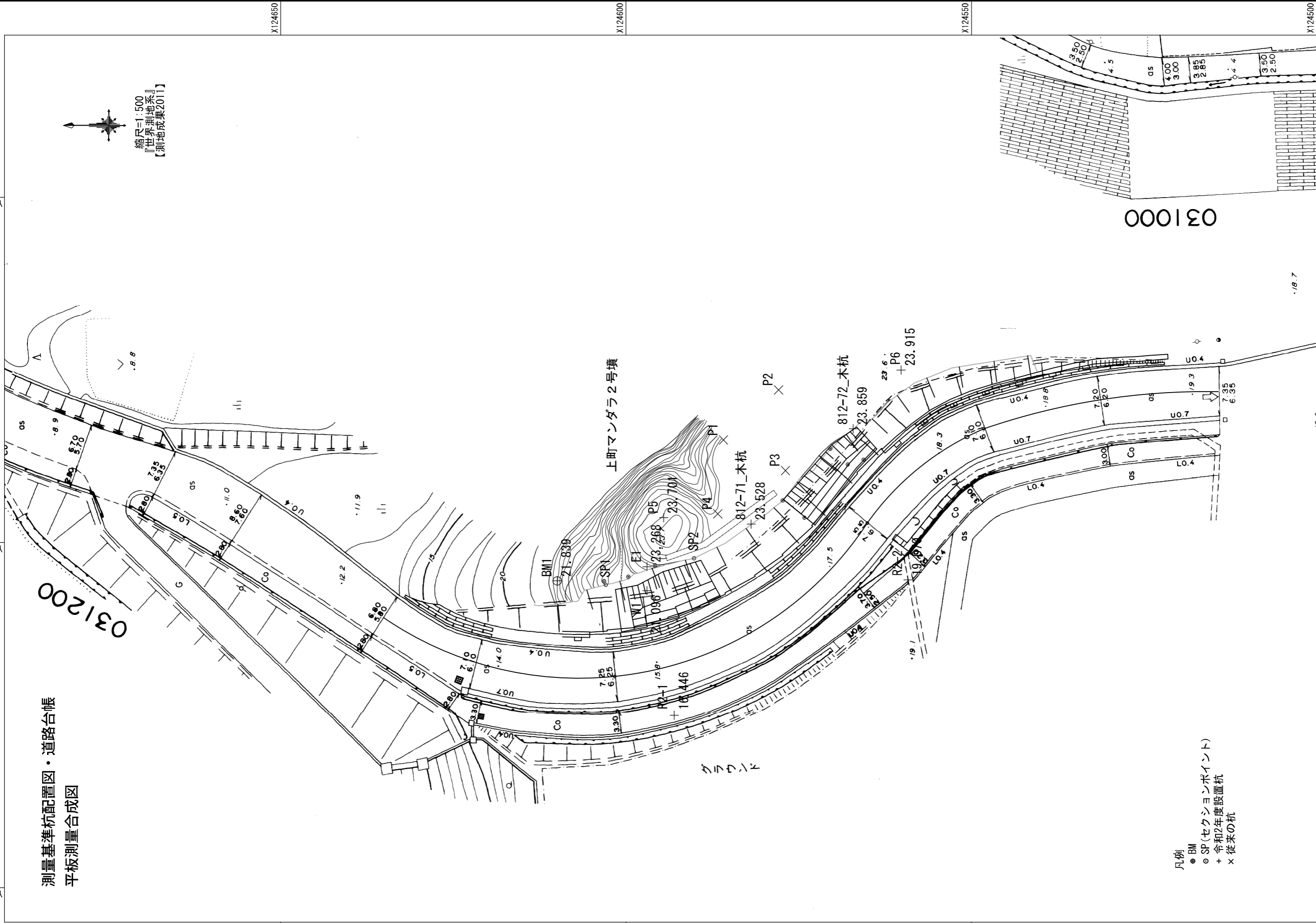


2号墳側断面写真

※撮影の位置は図4のアルファベットに対応する。

測量基準杭配置図・道路台帳
 平板測量合成図

縮尺=1:500
 『世界測地系』
 【測地成果2011】

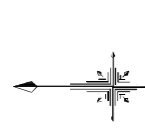


- 凡例
- BM
 - SP (セクションポイント)
 - + 令和2年度設置杭
 - × 従来の杭

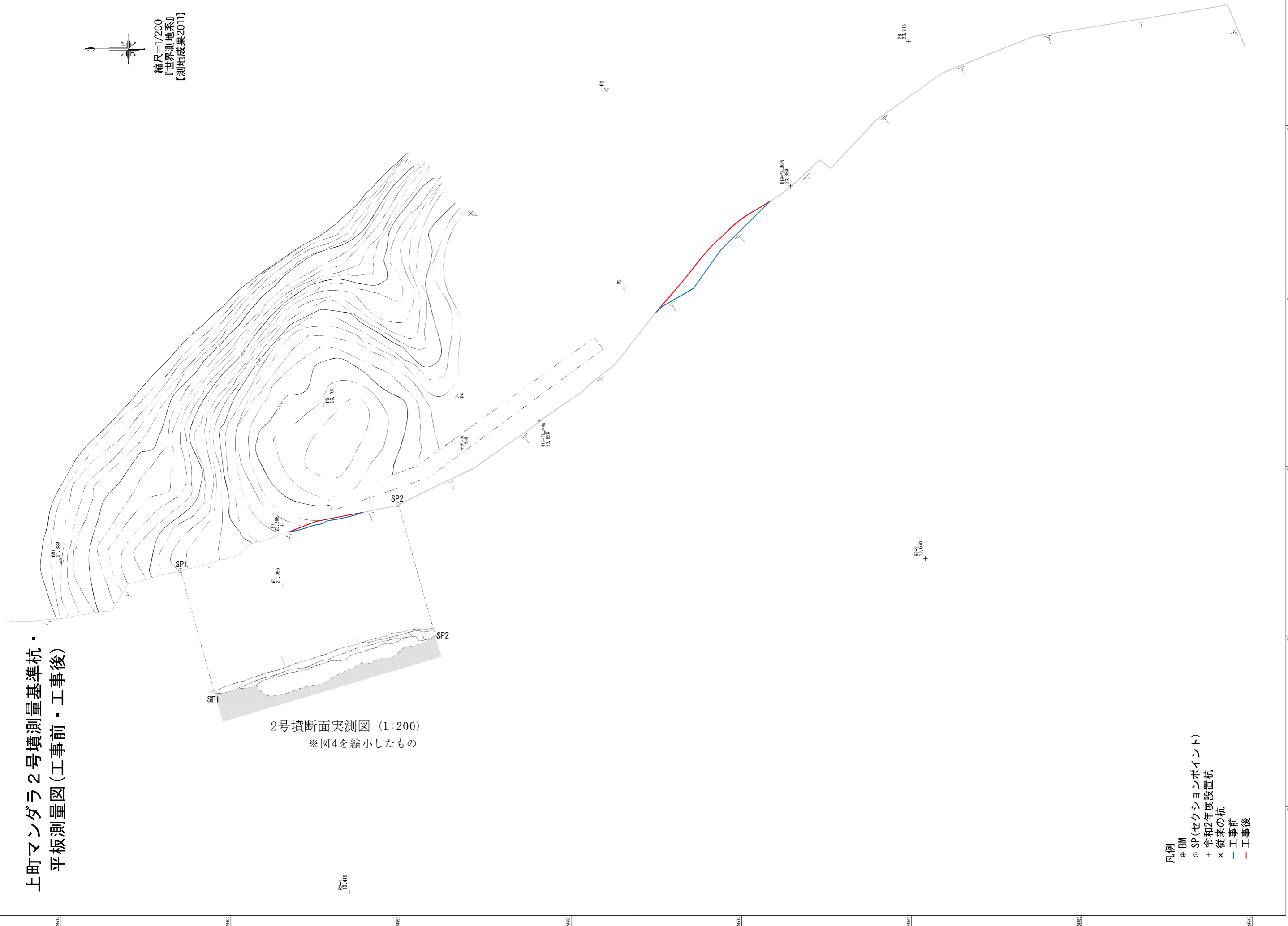
Y-28800 Y-28750 Y-28700

X124650 X124600 X124550 X124500

上町マンダラ2号墳測量基準杭・
平板測量図(工事前・工事後)



縮尺=1/200
『世界測地系』
【測地成果2011】



2号墳断面実測図 (1:200)
※図4を縮小したもの

- 凡例
- BM
 - SP (セクションポイント)
 - + 令和2年度設置杭
 - x 従来杭
 - 工事前
 - 工事後

図6 平板測量図 (1/200)